

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 8月 28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170101117		
法人名	株式会社二幸		
事業所名	グループホームひまわりⅡ		
所在地	〒064-0929 札幌市中央区南29条西10丁目7番1号 (電 話) 011-520-6338		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月4日	評価確定日	平成21年8月28日

【情報提供票より】 (平成21年7月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 6月 4日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算7.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木、鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1~3 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~38,000 円	その他の経費(月額)	20,000~27,000 円
敷 金	有 ( 円 ) <b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 ) <b>無</b>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 ( 7月 15日現在 )

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 75.3歳	最低	65歳	最高	83歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	林下病院、橋本歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、家族関係の再構築といった環境調整にも取り組みながら、利用者の充実した暮らしを支援している。家庭的で明るい雰囲気のもと、職員が丸手となって、利用者それぞれが役割や生きがいを持てる暮らしの実現に取り組んでおり、職員と利用者の信頼関係は厚い。また、協力医療機関の主治医と訪問看護による連携体制は、日常生活を健康面からバックアップし、安心した地域生活の継続を支えている。また、運営者の理念として、利用者及び家族の安心と満足を図ることはもちろん、職員を大切に考えている事業所である。このため、職員の労働意欲、職場環境を向上させるための細かな配慮もされている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題を踏まえ、市担当者とのコミュニケーションを深めるとともに、中央区グループホーム管理者会議の幹事という立場から、同業者とのネットワーク形成に取り組んでいる。地域とのつきあいについても、避難訓練や勉強会への参加呼びかけを行うなど積極的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目それぞれについて、全職員が振り返りを行うまでには至っていない。今後は、全職員があらかじめ自己評価表の評価項目について評価して、その結果をもとに話し合い、気付いた点を共有するなどの取り組みに期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では事業所が一方向的に活動報告をするだけでなく、運営に対する意見交換をしている。今後の活動や外部評価の結果報告に関する討議を行い、参考になる改善案を得ている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情担当窓口を明示するとともに、公的窓口も紹介している。家族訪問の際には、意見や要望を表出できるように働きかけている。また、事業所から家族には電話による報告も行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	参加可能な町内会の活動が少ないということもあるが、その他に近所の理容院や喫茶店などの事業所と日常的な交流をしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で相談し、事業所独自の理念を作り上げている。平成20年春に地域密着型サービスとしての役割を目指して理念の見直しを行った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念カードを携帯し、互いに確認しながら日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事は少ないが、近所の理容院や喫茶店などの事業所と日常的な交流をしている。現在、町内会の班長としての役割を担いながら、町内会に対して、勉強会や避難訓練への参加を提案している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、会議などの機会を利用して全職員の意見を反映しながら取り組み、日ごろのケア実践を振り返る機会としている。しかし、自己評価項目それぞれについて、全職員が振り返りを行うまでには至っていない。	○	今後は、全職員があらかじめ自己評価表の評価項目について評価して、その結果をもとに話し合い、気付いた点を共有するなどの取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告をするだけでなく、参加委員と活発な意見交換をしている。また、今後の活動や外部評価の結果報告についても討議をし、今後の運営上、参考になる改善案を得ている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護を受けている利用者が多いため、市の生活保護担当者との連携をはかったり、市の主催する会議に出席するなど市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1～2ヶ月毎に、ホーム便りに写真や個別コメントを添えて利用者個々の日ごろの様子を伝えている。また、行事があった時などは、その都度家族に報告している。金銭管理の状況は3ヶ月毎に詳細な報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情担当窓口を明示するとともに、公的窓口も紹介している。家族訪問時には、意見や要望を表出できるように働きかけている。また、事業所から家族に電話報告も行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係による利用者支援の重要性を認識しており、新規担当者には、利用者との関係づくりの期間を設けてスムーズな職員交代に努めている。運営者は随時、職員異動によるダメージを防ぐためのフォローを行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の研修機会を確保し、段階的な育成に努めている。職員は研修希望を提出し、希望を反映させた研修計画を作成している。また、研修を希望する場合の手続きについても会議で管理者や職員に伝達してある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、中央区グループホーム管理者会議の幹事をしており、同業者とのネットワークづくりに取り組んでいる。事業所が満室で利用者を受け入れられないような状況でも、利用者本位の観点から他の同業者を紹介するなどしてネットワークを機能させて対応している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に数度、見学してもらい、事業所の雰囲気や職員に馴染む機会を設けている。その際には、十分な面談を通して本人や家族の意向や不安を受け止め、納得した利用に繋げるよう配慮している。また、利用者が入院していた病院のケアワーカーとのコミュニケーションも図っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の喜びや不安を分かち合い、「家族」のように共に支え合って過ごす関係を築くよう努めている。料理のこつを利用者から教わったりして、利用者介護されるだけの立場におかない関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日ごろから利用者の思いや要望を、声かけなどを通しての把握に努めている。希望する利用者には、デイケア利用の支援をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員や、本人、家族と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した、利用者本位の介護計画を個別に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期的な見直しを行うとともに、状況変化に応じ見直し、現状に即した介護計画の作成と実施を図っている。また、利用者の過去を理解しているソーシャルワーカーから、情報を聞きながら作成することもある。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、看護師による日常の健康管理を行っている。また、必要に応じて通院や理美容院に行くことへの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医への定期受診及び月2回の訪問看護により、適切な医療が受けられるよう支援している。24時間対応で看護師との連絡がとれるよう、看護師の携帯電話番号も事務所に表示してある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における看取り介護の同意書を本人、家族と交わすとともに、医療機関との連携や事業所の出来得るケアについて話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格に配慮した対応により、誇りやプライバシーの尊重に努めている。職員同士が点検し合い、利用者の尊厳を守るための態度の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースや希望を優先し、個々の力量を発揮しながら生きがいや喜びのある暮らしを実現できるように支援している。食事を摂るペースも、個々の利用者に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意欲や力量を活かしながら、職員と利用者が協働して食事の準備や片付けを行っている。職員は、和やかな食卓をともに囲みながら、食事に集中できる雰囲気づくりにも配慮している。なお、利用者個々に合わせた、調理方法を採用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	順番や時間帯など、利用者の希望に即した入浴支援をしている。また、希望があればその都度、シャワー浴や清拭を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	メモ用紙を作る、買い物袋をたたむ、もやしのひげ取りをするなど利用者一人ひとりの性格や意欲、力量に応じて、家事参加や趣味活動で力を発揮したり、楽しんだりできる場面を設け、役割や喜びのある暮らしとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、散歩や買い物に出かけられるよう支援している。また、墓参りや温泉へ行くなどの希望にも対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中は施錠していない。職員同士が声を掛け合い、利用者の所在や様子を把握することで安全確保に努め、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、利用者とともに避難訓練を実施し、避難経路や消火器の使用方法を確認している。今年は6月に実施している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	区役所保健センターの栄養士から助言を受け、栄養バランスに留意した献立を作成するとともに、体重変動に気をつけながら、一人ひとりに応じた食事量や水分量となるように支援している。また、食事量、水分摂取量についても記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく、生活感のある家庭的な雰囲気、居心地の良い空間となるよう配慮している。共用空間には、座り心地のよいソファが配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の好みの家具や使い慣れたものを持ち込み、一人ひとりが居心地良く過ごせる場所となるよう配慮している。		

※  は、重点項目。